

(別添様式1)

## 中央西農業振興センター 高吾農業改良普及所

管内市町村 管内JA	日高村、佐川町、越知町、仁淀川町 JAコスモス				
産地の特徴 主な園芸品目	<p>高吾地域は、仁淀川の上流域から中流域にかけての中山間地域が多くを占める地域です。比較的温暖な気候ですが、盆地特有の気象変化が見られ、一日の寒暖差は大きく、冬には積雪が見られることもあります。</p> <p>平坦部では水稻やニラ、冬春トマト、ショウガ、夏秋ピーマン、イチゴ、オクラ、新高梨等の園芸作物が、中山間部では茶を中心に、梨、薬用作物、夏秋トマトなど地域の特性を生かした作物が生産されています。</p> <p>近年は、高品質・高収量の安定生産につなげるよう、施設園芸品目への環境制御技術の普及、産地拡大に向けた企業参入や6次産業化を推進するなど、意欲ある担い手による多種多様な農業、さらにはJA出資法人による地域全体で農業を支える仕組みづくりにも取り組んでいます。</p>				
人員配置  平成26年度 13名 <small>注</small>  平成27年度 14名 <small>注</small>  平成28年度 13名	<p>平成29年度職員総数 13名（うち実務経験が3年未満の職員 2名）</p> <table border="1"> <tr> <td>農業改良普及所長 1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：日高村、佐川町)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：越知町、仁淀川町)</td> </tr> </table> <p><small>注</small>  ○1名：26.10.12～27.1.31産休、27.2.2～28.3.31育休  ○1名：27.2.2～27.6.23病休</p>	農業改良普及所長 1名	地域営農担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：日高村、佐川町)	産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：越知町、仁淀川町)
農業改良普及所長 1名					
地域営農担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：全域)					
産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：日高村、佐川町)					
産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：越知町、仁淀川町)					
普及活動の 進捗管理	<p>○基本的に、課題解決に向けた普及指導計画(Plan)を作成し、課題対象に働きかけ(Do)、対象の変化を把握(Check)しつつ、到達目標の達成を念頭に活動計画を見直し(See・Plan)、普及活動を実践(Action)している。</p> <p>【具体的には】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及活動ごとに指導記録を作成して所属で共有する。</li> <li>・総合課題は、毎月1回のチーム会(チーム員+チーフ+所長)を基本に開催し、到達目標に対する進捗状況を共有する。新たな問題・課題の発生には、対応策を協議するなど普及指導計画を見直している。</li> <li>・個別課題では、四半期毎の普及指導活動実績報告に合わせ、総合課題同様に到達目標に対する進捗状況の確認(担当者+チーフ+所長)や、今後の活動計画の見直しなどを行っている。</li> <li>・年度の中間時(10月頃)には専門技術員も加わり、各課題の到達目標に対する達成状況の共有と到達目標の達成に向け、より効果的・効率的な視点で検討し、後期の普及活動計画の見直しに取り組んでいる。</li> <li>・第3四半期普及活動実績報告時(1/10提出)には、到達目標に対する達成状況を報告している。</li> </ul>				

職員の資質向上 の取組状況	<p><b>●職場研修</b></p> <p>研修テーマ：施設栽培における統合環境制御技術の最近の状況 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合環境制御とは</li> <li>2. 各環境要因の管理要点 (光環境、炭酸ガス、温度、湿度、灌水)</li> <li>3. 生育診断と植物制御</li> <li>4. 実践農家の意識の変化</li> <li>5. 最近の施設園芸の流れと今後の展望</li> </ol>										
	<p><b>●新任者を対象にした○JT（概要を記載）</b></p> <p>(新任者：採用1年目 作物、野菜、果樹部門副担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及課題（総合-1）チーム活動を通じた普及業務推進について</li> <li>・関係機関（町村、JA）と連携した補助事業推進について</li> <li>・トレーナーや他職員からの各部門・業務・事業等の推進について</li> </ul> <p><b>●国段階研修（平成28年度）</b></p> <table border="1" data-bbox="419 1013 1394 1163"> <thead> <tr> <th data-bbox="419 1013 1251 1058">研修名</th> <th data-bbox="1251 1013 1394 1058">人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="419 1058 1251 1103">普及指導センター所長研修</td> <td data-bbox="1251 1058 1394 1103">1名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="419 1103 1251 1163">新規普及職員研修（中国四国ブロック）</td> <td data-bbox="1251 1103 1394 1163">1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考) 平成27年度の参加人数 3名</p> <p><b>●県段階研修（平成28年度）</b></p> <table border="1" data-bbox="419 1321 1394 1516"> <thead> <tr> <th data-bbox="419 1321 1251 1366">研修名</th> <th data-bbox="1251 1321 1394 1366">人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="419 1366 1251 1411">自主企画研修 ・施設花き類におけるIPM技術の適応性の検討 ・県内伝統作物の探索と保存及びデータベース化と生産振興策の検討</td> <td data-bbox="1251 1366 1394 1411">2名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考) 平成27年度の参加人数 1名</p> <p>また、上記の他に普及指導員専門技術高度化研修、普及指導員トレーナー研修、普及指導員新任者研修、新任普及指導員先進農家派遣研修などにも参加</p>	研修名	人数	普及指導センター所長研修	1名	新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名	研修名	人数	自主企画研修 ・施設花き類におけるIPM技術の適応性の検討 ・県内伝統作物の探索と保存及びデータベース化と生産振興策の検討	2名
研修名	人数										
普及指導センター所長研修	1名										
新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名										
研修名	人数										
自主企画研修 ・施設花き類におけるIPM技術の適応性の検討 ・県内伝統作物の探索と保存及びデータベース化と生産振興策の検討	2名										
その他	<p><b>●ICTの活用について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境制御技術推進に関連し、機器の使用方法や環境測定データの共有に向けICT技術習得に努めている</li> </ul>										

## 評価対象課題の実績（28年度）及び計画（29年度）の概要

所属名	中央西農業振興センター高吾農業改良普及所																		
課題名	総合－1 ニラ産地力の強化と経営安定																		
取組期間	平成28～31年度	産業振興計画課題分類	I-①、②、③ II-③ IV-①																
対象	JAコスモス ニラ生産部34戸（佐川町、越知町、仁淀川町）																		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産地の維持・拡大を図るため、出荷量、出荷販売額の確保と品質向上を支援し、農家の所得向上を目指す。</li> <li>○調製作業（そぐり、結束）にかかる外部労働力確保の悪化を受け、調製作業（労力）の新たな仕組みづくりを支援する。</li> <li>○等級落ちの原因を明らかにし、品質向上対策を徹底する。</li> <li>○環境制御技術等の增收技術導入により冬期の出荷量を確保し、所得向上を目指す。</li> </ul>																		
平成28年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成29年3月にJAコスモス永野集出荷場に「そぐりセンター」が設置された。調製作業を委託する仕組みができることで「産地提案型」による新規栽培者の募集が始まった。</li> <li>○9～1月の秀品率が向上するとともに、市場事故件数が0件となった。</li> <li>○環境制御技術を導入した結果、目標収量が確保できた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="362 1074 1367 1312"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状（H27）</th> <th>目標（H28）</th> <th>実績（H28）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そぐりセンター設置</td> <td>なし</td> <td>着工</td> <td>設置</td> </tr> <tr> <td>9～1月秀品率</td> <td>34%</td> <td>40%</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>環境制御技術導入農家平均収量</td> <td>6.3/10a</td> <td>6.8t/10a</td> <td>6.8t/10a</td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状（H27）	目標（H28）	実績（H28）	そぐりセンター設置	なし	着工	設置	9～1月秀品率	34%	40%	53%	環境制御技術導入農家平均収量	6.3/10a	6.8t/10a	6.8t/10a
項目	現状（H27）	目標（H28）	実績（H28）																
そぐりセンター設置	なし	着工	設置																
9～1月秀品率	34%	40%	53%																
環境制御技術導入農家平均収量	6.3/10a	6.8t/10a	6.8t/10a																
平成28年度の主要な活動内容と実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○そぐりセンター設置について (先進地事例調査 4月) JA及び生産部員とJA高知はた佐賀支所の調整作業施設の活用状況を確認。 (定例会、役員会 6月) そぐりセンター設立に向けた協議と合意形成 (個別巡回、聞き取り調査 6月～10月) そぐりセンター利用経費試算及び調製作業委託の実態調査 (説明会 10月) そぐりセンター稼働に向け、経費試算結果、委託条件等について確認 (運営検討会 1月2月) 委託希望者による効率的な運営を検討 (全戸アンケート 3月) そぐりセンター委託量について調査</li> <li>○秀品率の向上について (腐敗対策会議 6月) 市場事故防止チェックリストによるGAP点検 (定例会 毎月) 秀品率低下の原因別に栽培管理技術を徹底 (出荷場掲示 毎週) 害虫アザミウマの発生消長を出荷場に掲示し、適期防除を促す (個別巡回指導) 基本技術を確認し、肥培管理等の改善を支援</li> </ul>																		

平成28年度の主要な活動内容と実施時期 (続き)	○環境制御技術の導入について (実証設置 10月) 電照栽培、炭酸ガス施用技術について実証 (個別指導 每週) (収穫調査 11~2月) 土壌分析、環境データ等調査結果をもとに栽培管理指導
-----------------------------	--



平成29年度の主な目標	○一年通过对續した出荷量が確保され、そぐりセンターの運営が安定することで労働力対策として機能する。 ○病害虫対策が実践され秀品率が向上するとともに市場事故0が維持される ○環境制御技術等が確立され、農家への導入がすすみ、単価の高い冬期出荷量が増加する。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (H28)</th> <th>目標 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そぐりセンター出荷量</td> <td>0t/年</td> <td>117t/年</td> </tr> <tr> <td>9~2月秀品率</td> <td>51%</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>環境制御技術等導入面積</td> <td>276a</td> <td>394a</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状 (H28)	目標 (H29)	そぐりセンター出荷量	0t/年	117t/年	9~2月秀品率	51%	55%	環境制御技術等導入面積	276a	394a
項目	現状 (H28)	目標 (H29)											
そぐりセンター出荷量	0t/年	117t/年											
9~2月秀品率	51%	55%											
環境制御技術等導入面積	276a	394a											

平成29年度の主要な活動内容と実施時期	○そぐりセンター稼働後のそぐり作業に係る労働力調査(4月~) ○リスク軽減のための生産者版GAPの導入と実践(10月) ○定例会、個別巡回による病害虫予防対策の徹底(毎月) ○環境制御技術導入農家での実証設置(10月) ○ハウス内環境測定に基づく栽培管理支援(11月~) ○新規就農者の生産部会の活動への誘導(7月~)
所内体制	野菜担当2名、経営・担い手担当1名、地域営農チーフ1名、産地育成チーフ2名

連携推進体制の整備	<p>【役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協議会：新たな体制整備(役員会、月例会)</li> <li>園芸連：販売情勢・品質評価(月例会)</li> <li>農業技術センター：環境制御技術、葉先枯れ対策技術確立</li> <li>普及所、JA：栽培技術、経営指導(月例会、個別巡回)</li> </ul>
-----------	--

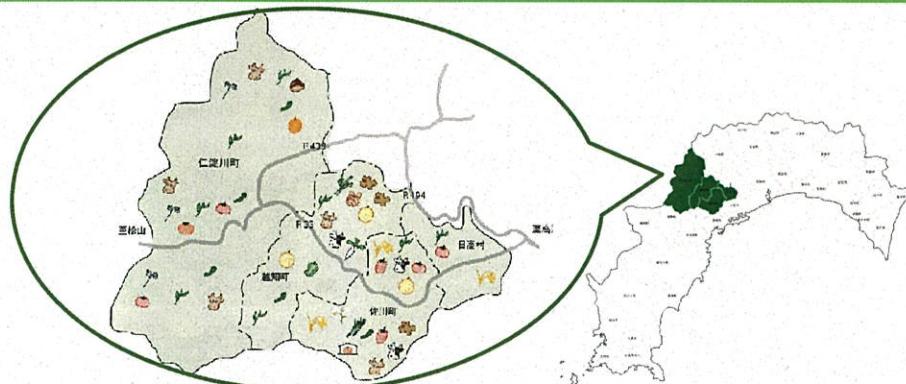
# ニラ産地力の強化と経営安定



中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

1

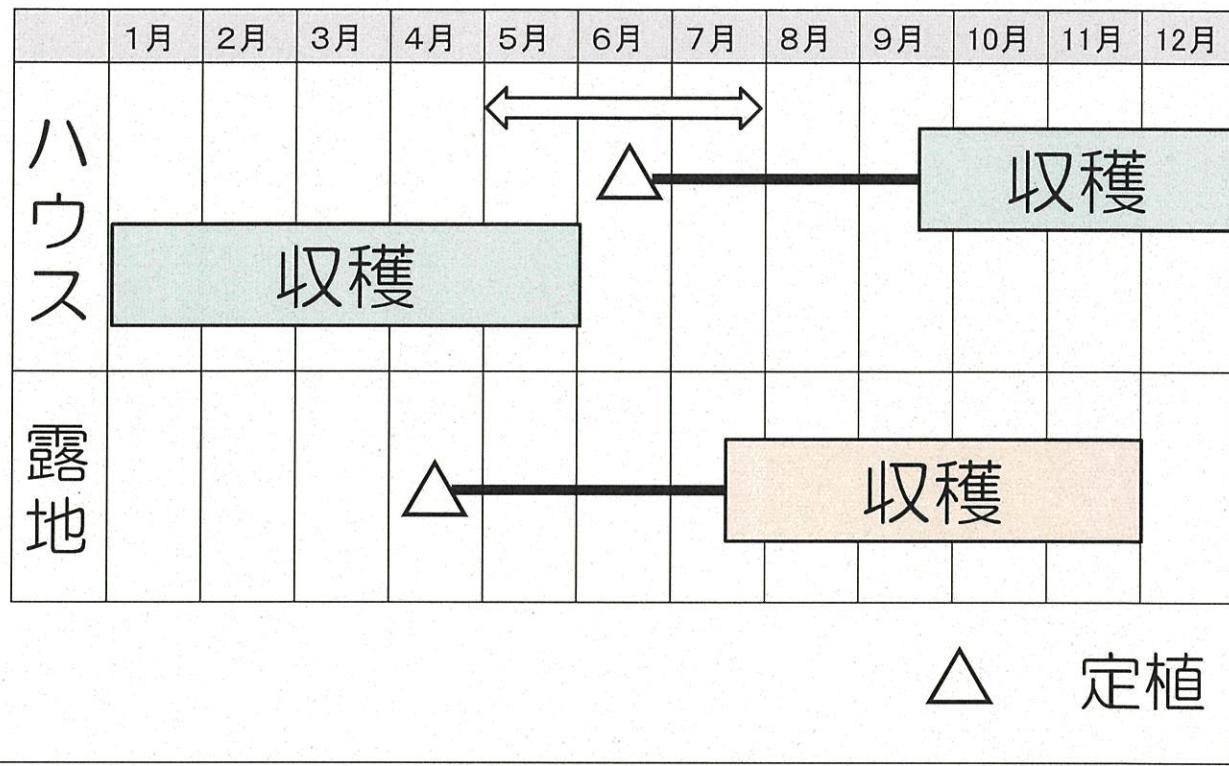
## 対象の概要 1



- 高吾農業改良普及所管内は、仁淀川の上流域から中流域にかけての中山間地域が多くを占める。
- ニラは昭和50年に佐川町に導入され、中山間地域でも露地で栽培できることから越知町・仁淀川町に広がり地域の基幹品目として位置づく。
- JAコスモスニラ生産部の平成27園芸年度の販売金額は4億2百万円（いの町を含む）でショウガ・トマトに次ぎ園芸品目第3位。

2

## ニラの主な作型



3

## 対象の概要2

- ニラ生産部の栽培面積及び戸数が減少傾向にある。
- 県内他产地と比較すると秀品率及び反収が低い。
- そのため、単位面積あたりの販売金額が少ない。

	平成25 園芸年度	平成26 園芸年度	平成27 園芸年度	平成28 園芸年度
栽培面積 (a)	1,520	1,500	1,538	1,278
戸数 (戸)	58	53	52	44
出荷量 (t)	610	630	620	—
販売金額 (百万円)	310	358	402	—
秀品率 (%)	64.0	55.3	54.4	—
ハウス反収 (t)	4.8	5.2	5.0	—

表1 JAコスモスニラ生産部の推移 (いの町を含む)

4

## 対象の問題点1

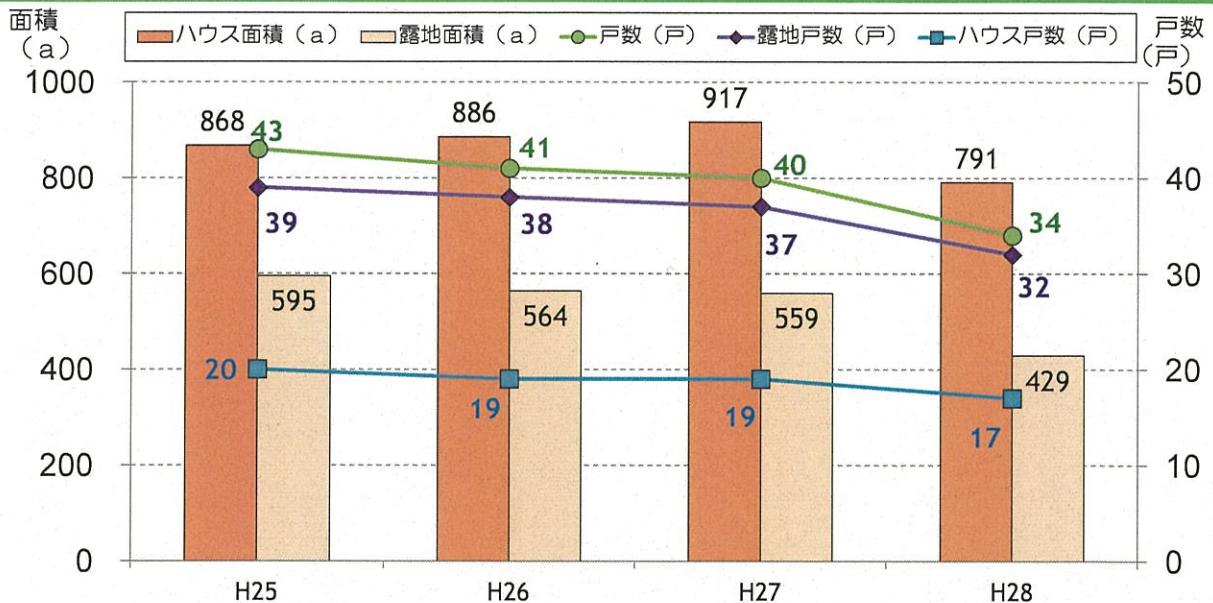


図1 管内の栽培面積と栽培戸数の推移

※JAコスモスニラ生産部（佐川町・越知町・仁淀川町）

- 佐川町ではハウスでの冬春栽培が中心。越知町・仁淀川町は露地での夏秋栽培のみ。高齢化等により今後も減少が予想される。

5

## 対象の問題点2

表2 過去6年間におけるニラ新規就農者数の推移

(単位：人)

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	計
佐川町	2	1	2	1	1	1	8
越知町					1		1
仁淀川町	1			2			3
計	3	1	2	3	2	1	12

※複合経営を含み、雇用就農者及び配偶者は除く。現在離農している者もいる。

※調査年度の調査期間の違いにより、実際の栽培年数と異なる場合がある。

- ニラは初期投資が少ないため新規就農が比較的多く、6年間で12名が新規就農している。
- そのうち7名が佐川町の施設ニラで就農し（後継者含む）、出荷量の維持につながっている。
- しかし調製作業者の確保が難しくなるなどして農家が新規参入に難色を示すようになる。

6

## 対象の問題点3

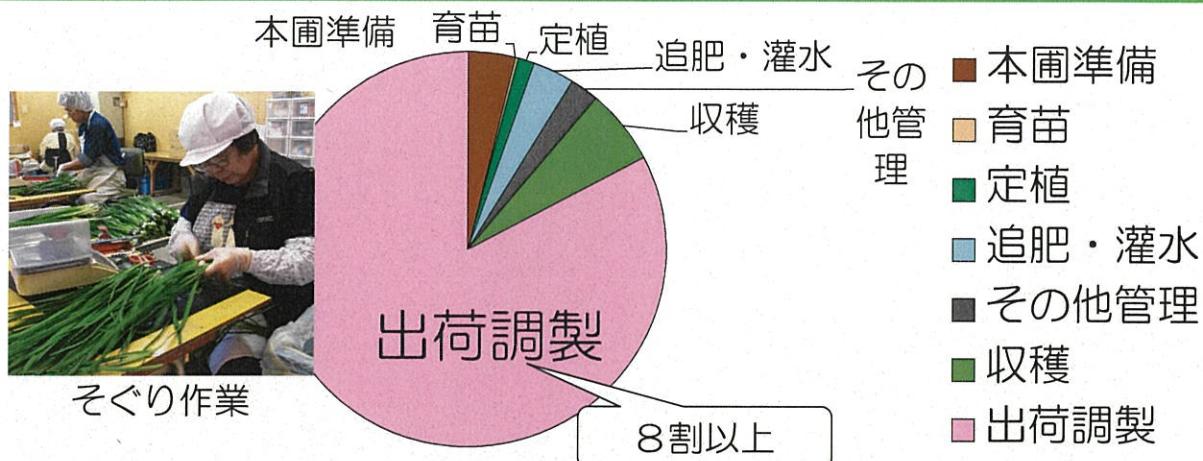


図2 施設ニラに係る作業労力の割合 (H19年度高知県調べ)

- 労力不足が新規参入や規模拡大を制限している。
- 出荷調製労力に合わせて収穫するため、労力不足は収穫遅れによる品質劣化や減収の要因になる。
- ニラ生産部が佐川町に調製機械導入支援の要望書を提出する(H26)。

7

## 対象の問題点4

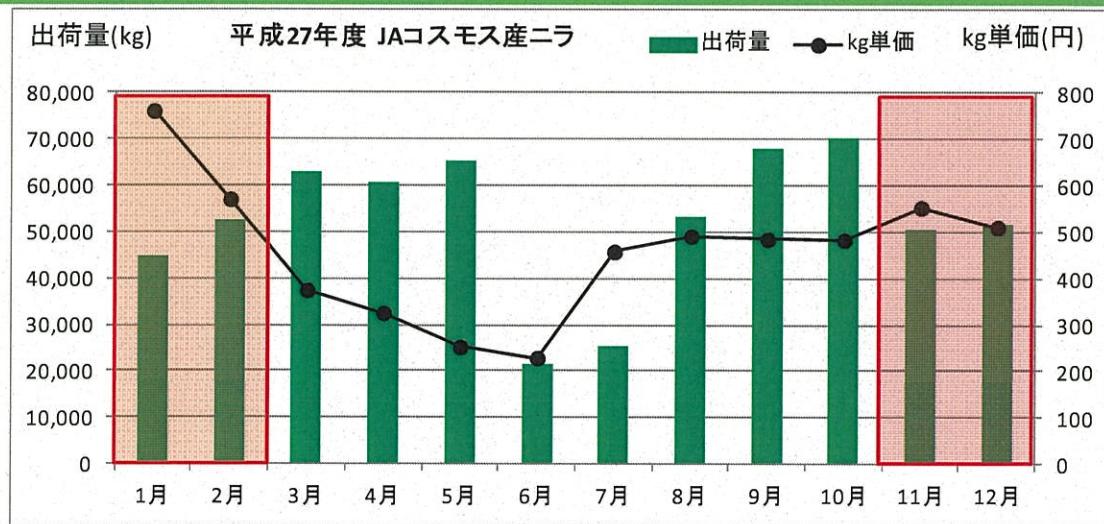


図3 JAコスモス産ニラの月別出荷量とkg単価の推移 (平成27年)

- 所得向上のために高単価期の出荷量の増加が必要。
- 冬期の增收技術として環境制御技術が有望だが、ニラは炭酸ガス施用による葉先枯れの助長が報告されており、技術確立ができていない。

8

## 対象の問題点5

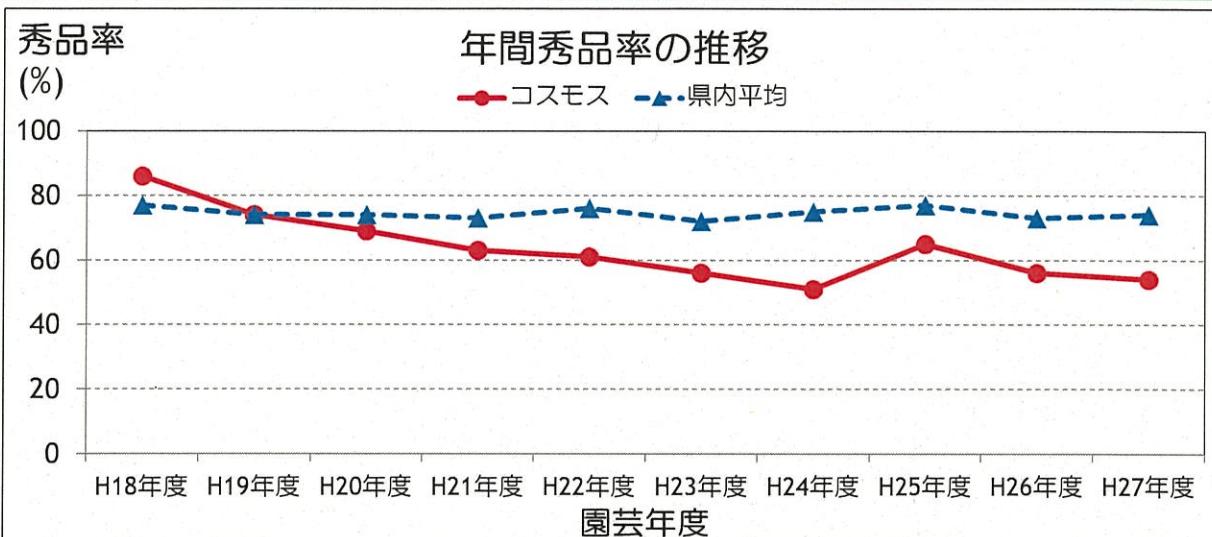
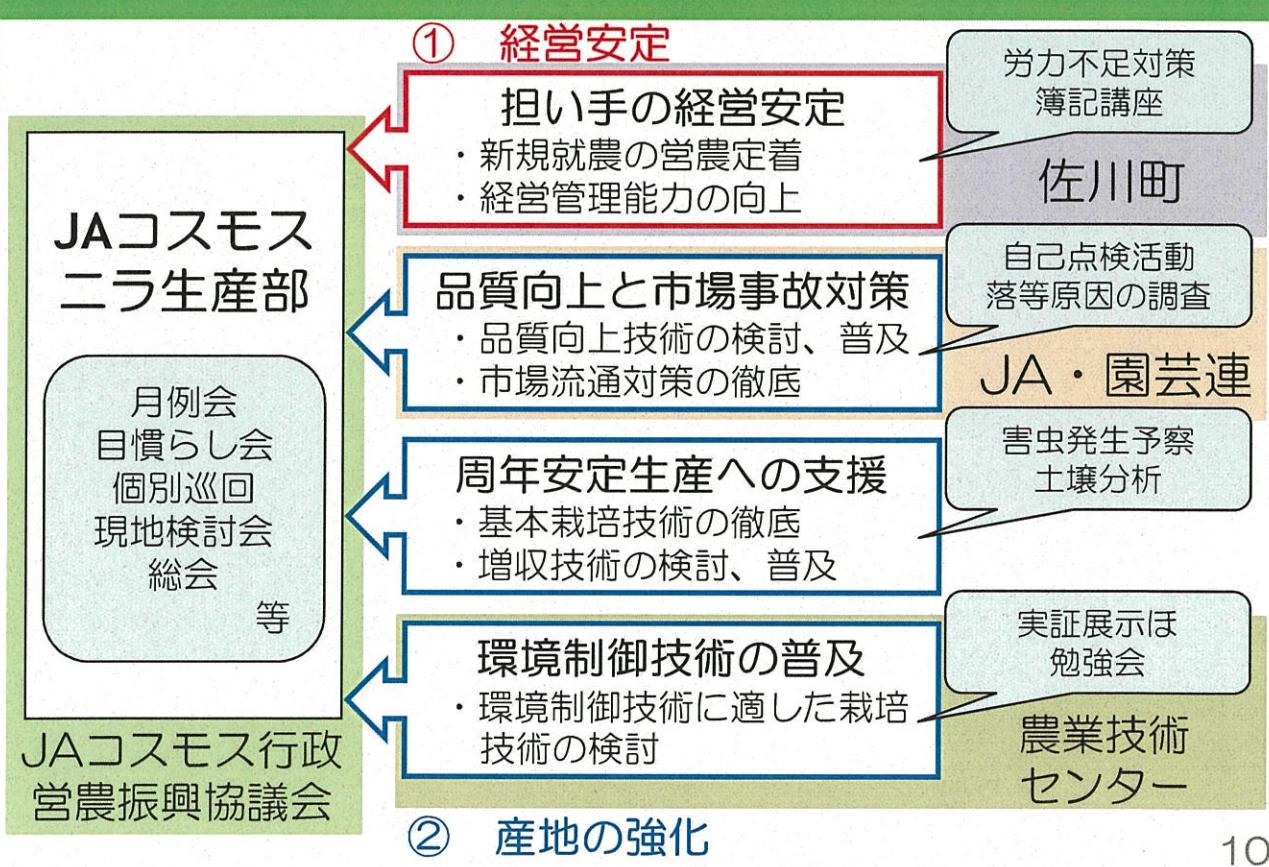


図4 JAコスモス産と県内産ニラの秀品率の比較（平成27年度）

- 秀品率が年々低下しており、販売額や所得に影響している。
- 品質低下の要因は、葉先枯れや病害等管理不足が多い。

9

## H28年度の取り組み



10

## 到達目標と結果

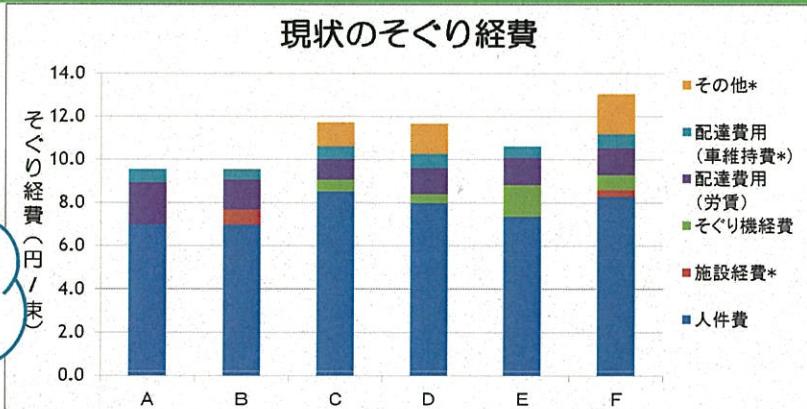
課題名	評価指標	現状（H27）	目標	結果（H28）
担い手の経営安定	リーダー育成（青年農業士）	候補者0名	1名	
	経営改善志向農家の所得	所得目標250万円 2戸/5戸	5戸/5戸	
	そぐりセンター設置	なし	着工	
品質向上と市場事故対策	秀品率（9～1月）	34%	40%	
	市場事故数	1件	0件	
周年安定生産への支援	中山間露地出荷量	43 t	45 t	
	ハウス出荷量（12～1月）	92 t	95 t	
環境制御技術の普及	環境制御技術導入農家10a当収量	6.3 t	6.8 t	

11

## 活動内容（担い手支援）

### 出荷調製経費の見える化

人件費以外の労力や経費が結構あるがやね・・・

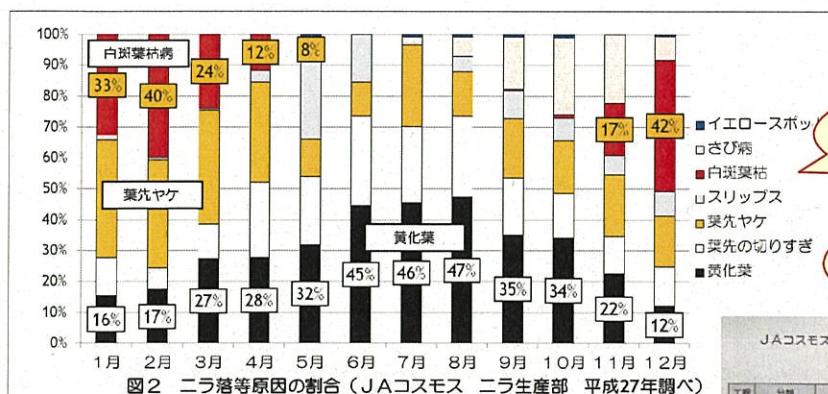


先進事例現地調査（4月）

新規就農希望者の受け入れ再開（10月）  
そぐりセンター設立（3月）

12

## 活動内容（品質向上）



時期別の品質低下  
要因を調査

チェックリスト  
見直し・実践

JAコスモス ニラ生産部チェックリスト (市場事故を出さない生産~出荷の管理)		点検日: 平成 年 月 日
氏名 _____		できている項目は、「○」を付けてください。↓
工程	分類	内 容
収穫貯蔵場・保管	収穫の適正使用	豊鉢農薬を使用基準どおり使用している 生産履歴を記載し、保管している 生資ストレージなどに必要な量を貯蔵している (例 生育初期: 80~100L 中期: 100~120L 後期: 150~200L ※10aあたり) 農業散布器具やホースは、農薬が残らないように洗浄している 周囲への飛散の恐れがないように、風向き、噴口の向き等に注意し散布している
	收穫時間帯	腐敗の恐れのある病害虫生株は、収穫せず刈り捨てている (バクテリア、白蘚病、さび病等) 収穫は、早朝にしている(期間: 6~9月)

品質低下の原因と対策を見える化

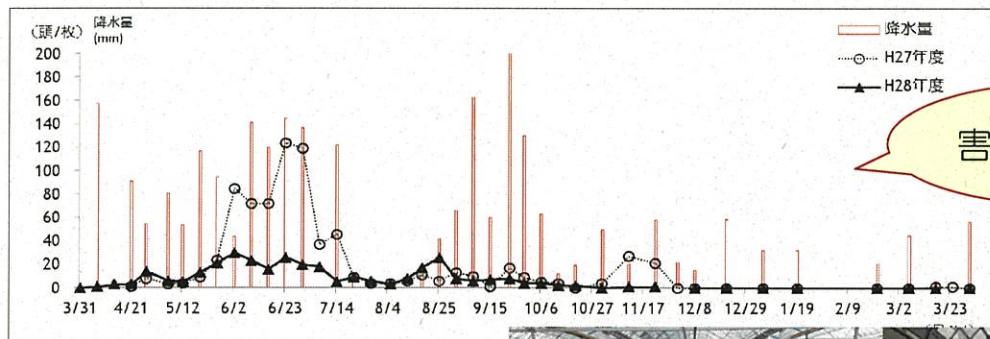
H27 品質低下要因の調査

H28 チェックリストの見直し・実践

異物混入防止対策の徹底 46%→54%

13

## 活動内容（安定出荷）



害虫発生予察

14か所のほ場で  
元肥施肥改善を実施



発生予察を基に害虫防除を徹底  
リン酸・カリの蓄積ほ場で施肥体系を見直し  
栽培暦で基本技術の周知・徹底へ

14

## 活動内容（環境制御）

事業による導入



実証ほの設置



H26年～ 炭酸ガス施用及び電照による増収効果の確認

※施用時期を調整して生理障害を軽減

H28年 補助事業を活用して栽培面積の大きい農家を中心導入が進む

環境制御技術導入面積 38a→276a

15

## 到達目標と結果

課題名	評価指標	現状（H27）	目標	結果（H28）
担い手の経営安定	リーダー育成（青年農業士）	候補者0名	1名	1名
	経営改善志向農家の所得	所得目標250万円 2戸/5戸	5戸/5戸	3戸/5戸
	そぐりセンター設置	なし	着工	設置
品質向上と市場事故対策	秀品率（9～1月）	34%	40%	53%
	市場事故数	1件	0件	0件
周年安定生産への支援	中山間露地出荷量	43 t	45 t	45 t
	ハウス出荷量（12～1月）	92 t	95 t	74 t
環境制御技術の普及	環境制御技術導入農家10a当収量	6.3 t	6.8 t	6.8 t

16

## 活動実績の周知

- 1 担当職員・JA指導員の情報共有  
総合課題チーム会（毎月）  
JAコスモス行営農振興協議会品目別P.T会（毎月）
- 2 生産者への迅速な情報提供と周知  
ニラ生産部月例会・役員会（毎月：ハウス/露地）  
ニラ生産部腐敗対策会議（6月）  
ニラ生産部総会（10月）
- 3 地域・県域への周知  
JAコスモス行政営農振興協議会（年3回）  
普及活動実績書の作成・配布（3月）  
高岡地区農業改良普及推進協議会（年2回）  
所属HP等で普及活動情勢報告（隨時）

## 今後の課題（H29年度普及計画）

- 1 担い手の経営安定  
新規就農者の生産部活動への誘導
- 2 品質向上と市場事故防止対策  
生産者版GAPの導入と実践
- 3 周年安定生産への支援  
~~環境制御技術の普及~~ 安定運営が産地の鍵！  
~~そぐりセンター運営支援~~



そぐり機



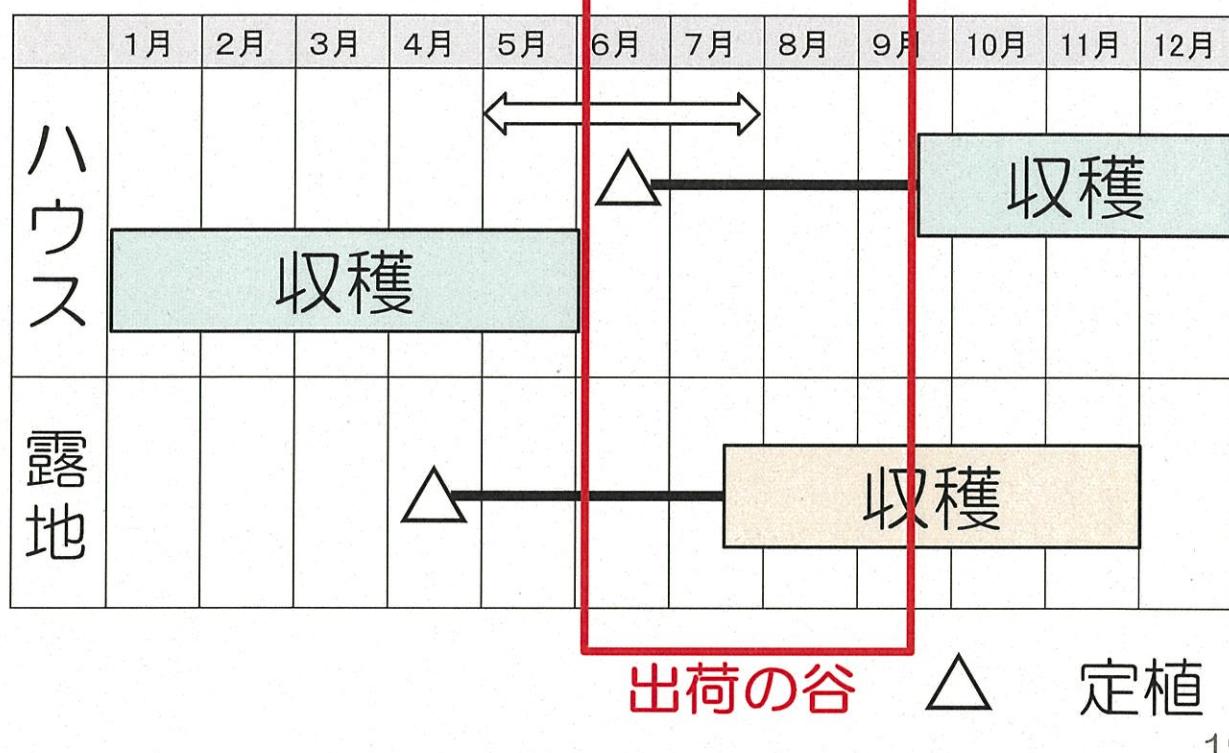
結束機



JAそぐりセンター

5月に本格稼働  
開始

## ニラの主な作型



## 今後の課題（H29年度普及計画）

### そぐりセンターへの安定出荷が課題

周年を通して安定してそぐりセンターに出荷されることで雇用の安定や出荷経費の低減につながる。

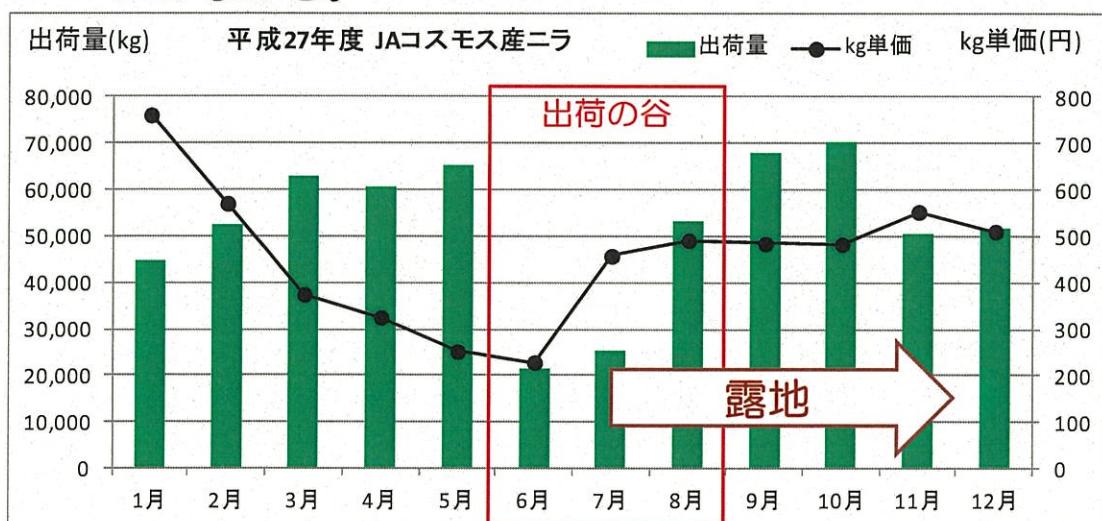


図3 JAコスモス産ニラの月別出荷量とkg単価の推移（平成27年）

## 平成28年度 普及指導活動実績の概要一覧

### 高吾農業改良普及所

	課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
総1	ニラ産地力の強化と経営安定	6	そぐりセンター設置	そぐりセ ンター着工	設置	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>JAと連携し生産部会の生産意向把握と課題への対応を検討した。県内外の先進地事例調査やセンター利用経費算出の提示ににより設置に導いた。</li> <li>月別等級落ちの原因を究明した。部会例会や個別巡回で、発生原因や対策を確認することで、適期防除ができるようになり秀品率が向上した。</li> </ul>	
総2	集落営農組織化の推進と組織活動の強化	5	農地の共同利用 (エコファーム鳥 の巣)	集落農志向集 落数	2集落	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会等を通して集落営農の必要性を話したことににより農地の維持管理に危機感を持った2集落代表者が集落営農への関心を示した。</li> <li>役員会、総会等を通して、水田の作業委託受入れ体制を支援した。</li> <li>共同農地の生産物販売では、佐川町給食センターの意向調査やJAとの話し合いにより供給体制確立ができた。これにより共同利用面積拡大が図られた。</li> </ul>	
総3	特用産物を主体とした山間農業の振興	8	トマト生産園地面 積	自走式茶園管理 機実証 ほ場数 茶樹更新戸数	2箇所 1戸	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>茶業試験場と連携して自走式茶園管理機による省力化を周知し、整枝作業展示により認知度を高めることができた。</li> <li>部会において茶樹更新の必要性を周知し、茶樹更新ができた。</li> </ul>	△
総4	日高トマト生産園地拡大の取り組みを核とした 地域の活性化	5	トマト生産園地面 積	トマト生産園地面 積	8.2ha	8.1ha	<ul style="list-style-type: none"> <li>頻繁に生産者や関係機関と検討し、補助事業計画の作成支援により、JA出資法人が設立され企業が農業参入した。</li> <li>月例会で情報提供し関心を高めることで、環境測定装置、炭酸ガス発生装置併用を含め導入農家が増えた。</li> </ul>	○

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
個1 梨産地の強化	早生有望品種の植栽戸数の拡大	1	2戸	4戸	○		・「凜夏」等の品種特性について、果樹試験場と連携し収集した基礎的果実データをもとに、生産者に植栽を提案し、植栽戸数が拡大した。 ・タイ王国への輸出を目指し、価格設定、サンプル果実品の送付や販売促進用品の作成を支援した。販売価格で折り合いがつかず商談は不成立となった。	
	輸出の継続		1	0	△			
個2 イチゴ新規就農者の確保・育成及び経営安定への支援	新規研修生 1月ダニ防除成功 農家率	3	1人 80%	1人 85%	○		・新規就農者の確保に向け産地提案書の作成を支援した。また、部会と受入体制を検討し、体制強化することで研修生が確保できた。 ・生産履歴や聞き取り結果をもとに、天敵利用の有無による薬剤ローテーションを例示した。また、先進農家の天敵利用方法を情報共有することでハダニ被害が抑制できた。	
個3 新規就農者の経営安定への支援	農業所得達成農家 目標収量達成農家 数	3	3戸 3戸	3戸 3戸	○ ○		・就農5年目までの農家を対象に営農目標・計画作成の助言指導、個別簿記指導を実施した。新規就農者自身が経営の問題点が把握できるよう誘導した。	

## 平成29年度 普及指導活動計画の概要一覧

## 高吾農業改良普及所

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
総1 ニラ産地力の強化と経営安定	6	そぐりセンター出荷量 9月～2月 秀品率向上	0t 51%	117t 55%	・そぐりセンター運営検討会等での助言 ・運営検討会：2回、役員会：6回 ・病害虫防除対策の指導 ・個別巡回：10回 月例会：10回	
総2 中山間地域の農業を支える仕組みづくりと集落営農組織の活動強化	4	集落営農志向集落数 新たな品目の選定	2集落 2品目	3集落 3品目	・集落代表者の聞き取り調査、各種研修会への参加 ・促進事例調査、集落営農塾の開催 ・実証(ほ)の設置と実績まとめ、定例会：12回	
総3 特用産物を主体とした山間地域農業の振興	2	自走式茶園管理機 実証(ほ)場数 茶樹更新戸数	2戸 1戸	5戸 1戸	・斜面茶園の生産維持、放棄茶園化防止のため管理機の実証、茶業試験場との連携 ・全体会、PT会、実証(ほ)設置：5戸 ・高樹高齢化による品質低下を防ぐため、部会において茶樹更新の必要性を周知 ・部会全体会説明、個別説明：5回	
総4 地域の活性化	5	新規就農者の確保 研修生 環境測定装置導入 ほ場力バー率	— 22% 50%	2人	・関係機関と連携し、產地提案書を活用した就農相談対応を行う。就農希望者に対して研修内容の検討や研修実施を進める。 ・環境制御技術を進めるために環境データに基づく栽培管理技術を支援する。 ・環境データ収集、実証結果のとりまとめとデータ活用 月例会：9回、個別巡回：61回	

	課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
個1 梨産地の強化	障害果対策技術実証ほの設置	1		0	1	・夏期の高温対策技術の普及による不良果発生低下を図る。 巡回調査:2回、実証ほの設置と発生果調査	
	輸出の実績			0	1	・輸出再開の支援 県貿易協会等と生産組合の情報交換:3回 輸出の検品への支援:1回	
個2 イチゴ新規就農者の確保・育成及び経営安定への支援	若手農家の経営改善 IPM防除体系の作成	3		—	課題の明確化1 作成	・経営課題の確認、経営改善案の提案 アンケート、個別面談 ・IPM体系の構築 ハダニ防除の調査、IPM防除体系の作成検討、 体系に基づいた防除の支援 個別巡回:30回 勉強会:2回	
個3 夏秋ピーマン産地の生産提案	目標収量達成農家 個別巡回数	2		8戸 70回	15戸 120回	・基本管理技術の徹底 勉強会:7回、個別巡回:15戸 ・IPM技術の検討と普及 実証ほの設置、調査、勉強会 ・JAと連携した指導体制の見直し、指導状況確認 個別巡回:120回、個別面談(2月)、チーム会:3回	
個4 経営に参画できる女性農業者の育成	講座参加者数	1		—	10人	・栽培技術や経営管理能力の向上 はちきん大学内容の検討、参加募集、 講座の開催:9回 目標達成状況の確認(3月)、事例研修、 交流会:1回	

平成29年度普及活動外部評価会  
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

(○評価会で発言、●評価用紙に記載)

評価項目		評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	・課内（所内）の分担	○この少ない普及員数で、中山間地域を良くカバーできていると感じた。もっと人員が必要でないか。 ●農家をサポートできる体制が構築できている。
	・活動の進ちょく管理の体制	●定期的な進捗管理の仕組みができており評価できる。
	・普及指導員の資質向上の取組	●2名の若手職員の育成方法のくわしい説明がなく、わからない部分があった。
普及指導活動の計画	・普及課題の設定	○地域の人とコミュニケーションがよく取れている。次の担い手も出ているし、10年、20年後も見据えた課題設定であった。 ○労働力不足に対するモデル的な課題。ストーリー性もあり良くわかった。 ○環境制御技術導入後のケアはどうしているか? →個別巡回で対応している。 ●他産地と比較するなど、データを活用し課題を明確にできている。
	・対象の設定	●対象を明確にし、課題に対する指標を持たせて、活動成果がわかりやすくなっている。
	・関係機関との連携	●JA、行政、地域との連携による取り組みのパイプ役となり、地域活性の役割を担っている。 ●JA、生産部会の理解を得て、連携も取れている。
	・目標設定	○現状が良くデータで分析され、課題、状況がわかりやすく、目標がしっかりと設定されている。結果も成果も、四半期ごとのチェックも指標ごとに示されていた。
普及指導活動の成果	・活動の経過	●原因の発生時期に集中的に広報するなど、力のいれどころを計画し実行できている。
	・実績（活動の結果）	○チェックリストの見直しで生産者の意識向上に役立ったことが評価できる。会に参加しない農家の対応が今後の課題。生産者の意識が変わっているので成果は上がっている。
	・成果（目標達成状況）	●そぐりセンター（調製作業施設）の今後に期待する。今後、効率的なセンターの活用が課題となる。 ●目標が達成できなかった原因について報告して欲しい。
	・結果の周知	○地元の人にも取り組みを知ってもらうことが大切。 ●全国から注目される事例となるので、さらにPRにも努めてほしい。
外部評価、総合所見等		
○発表内容が明確で、表・グラフもわかりやすかった。生産者の意識の向上も良くわかり、とてもわかりやすいプレゼンテーションであった。		
○現地調査を実施したことでのより普及の苦労がよくわかった。現地調査は良かった。		
○カット野菜等の加工野菜への取り組みをして欲しい。 ●目標設定についての根拠（現状と母数）がわかりにくい課題がある。		